

【所属名：教育委員会事務局こども教育課】

【会議名：第2回いじめ防止連絡協議会】

会 議 録

作成日 令和3年12月10日

日	令和3年11月26日	時間	14:30～16:00	場所	市役所201・202会議室
件名	報 告 ・市教育委員会から情報提供 ・各団体からの情報提供 情報交換				
出席者	【委員】7名（次の団体より1名） 糸魚川警察署、新潟地方法務局糸魚川支局、人権擁護委員協議会、主任児童委員、高等学校、市校長会、市教育研究会生徒指導部 【教育委員会】鶴本教育長 【事務局】こども教育課：富永課長、小野参事、水澤係長、佐藤副参事				
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	0人

会議要旨

1 開会のあいさつ（教育長）

2 報告

（1）糸魚川市教育委員会からの情報提供

・いじめ・不登校の状況（令和3年4月1日～10月31日）

資料P.2～P.4のとおり

質 疑

（高等学校）不登校支援として、オンライン授業は毎時間実施しているのか。

（事務局）毎時間ではなく、子どもたちと時間を決めて授業を自宅や別室から見ている。

（人権擁護委員）資料にある数字は、完全に不登校の子どもか。

（事務局）現時点で30日以上欠席している児童生徒を指している。

（人権擁護委員）不登校傾向がある子は、どのような子か。病気欠席はどうなっているか。

（事務局）ひと月に5日以上欠席している子どもであり、不登校と病欠とは分けて集計している。

（人権擁護委員）OD（起立性調節障害）は背景にいろいろなものがあると思うので、丁寧に見ていった方がよい。

（事務局）その子の背景も含めて、丁寧な対応を心がけている。

（人権擁護委員）不登校及び不登校傾向の子どもに、校内別室や適応指導教室、家庭訪問のどれか一つの対応をしているということか。その中で、原因を把握できるものなのか。

(事務局) 子ども一人ひとりの状況に応じた支援を行っており、子どもや保護者と話したりするなかで原因が把握できることがある。

(人権擁護委員) 得た情報に基づいて対応しているということか。

(事務局) 把握した内容を校内で共有し、対応している。

(主任児童委員) 不登校の中学生は卒業後、進学するのか。

(校長会) 基本的に進学だが、在家の子もいる。

(主任児童委員) 進学後の生徒の状況はどうか、中学校へ問い合わせはあるか。

(高等学校) 入試の発表後に、各中学校へ出向いて情報を得ているが、受け入れる高等学校では先入観をもたないように留意している。情報共有がしっかりできると適切な指導ができる。入学してから一定期間経ってから分かったことをもとに、改めて中学校に情報を聞きに行くこともある。

(校長会) 校長は中高で連携していて、繋がりがしっかりある。

(主任児童委員) 高校の実態について、県から情報をもらうことはできないか。

(事務局) 県からは、全体での数値の公表はできるが、高校別の数値の公表はできないとの回答。

(主任児童委員) 地元の高校で過ごす3年間で一歩でも踏み出す力をつけてほしい。

(人権擁護委員) いじめ認知のきっかけは？

(事務局) 本人の訴えや周りの子どもから教師への訴えがきっかけ。小学校では保護者からの訴えも多い。教職員、教育補助員や教育相談員が見つかることもある。

(人権擁護委員) いじめ認知を受けて、対応する組織が立ち上がるのか。本人の訴えがあっても認知しないことはあるのか。

(事務局) 組織的に事実関係の確認や対応方針の決定、役割分担等を行う。本人が苦痛を感じたことをいじめと認知するので、いじめとして対応する。

(校長会) 子どもが訴えたことについてきちんと吟味して事実として市に報告している。その後、どのように解決して行くかが大事。

(2) 各団体からの情報提供

(警察署) 現在、いじめ問題の把握は一切ない。

(法務局) 昭和56年度から行っている人権作文コンクールを今年も実施した。中学生を対象とし、人権尊重、基本的人権への理解、豊かな人権感覚を身につけることを目的にしている。11/18に、スマイリーキクチさんを講師に招いて人権講演を開催し、インターネットを通じて受けた誹謗中傷という自身の経験をもとに話していただいた。大変ためになり好評で、SNSの使い方の話もあり、機会があったら、児童生徒を対象とした講演もよいように感じた。

(人権擁護委員) 「人権だより糸魚川」には、作文コンクールや高齢者にプレゼントするヒヤシンス球根づくりの記事を掲載してある。また、裏面に掲載している「コロナのせいで」というコラムが、本局などで感激された。ぜひ読んでほしい。読んだ方から「糸魚川ってい

いところだね。あたたかい先生がいるね」と言っていた。

(主任児童委員) 9月予定の民生児童委員の部会が中止となった。今後、ヤングケアラーの学習を、こども課と連携して進める予定。民生委員は一人暮らし老人への対応で手がいっぱい。できる範囲で子どもへも目を向けていくようにする。

(高等学校) 本校については、落ち着いている。ただし、個別の問題はあり、苦慮している。昔あったような飲酒・喫煙の事案や暴力事案もほぼないが、ネット関係、SNS上で誹謗中傷は多くあり、いじめに該当することは全て認知している。いじめという言葉を使わずに対処するケースも増えてきている。いじめについては、3か月間の見守り、その後の関係改善を確認した上で、解消としている。今は、3年生は受験シフト、2年生は修学旅行に向けて対応を進めており、1年生はやっと学校に慣れてきて、進級に向けて取り組んでいる。それぞれにケアが必要で、対応している。

(校長会) 日常的な取組として、いじめやいじめに類する行為について、組織的に対応している。いじめられている子を守ることを第一に、いじめを行う子には人間関係スキルを身に付けさせる取組をしている。さまざまな家庭環境が背景にあり、文化、しつけ、経済状況等は個々に差異があるが、望ましい人間関係を作るスキルを身に付けさせたい。トピック的な取組として、小中学校でいじめ見逃しゼロ集会を行っており、弁護士や元校長、身体障害者スポーツ協会の方、生まれつき全盲の歌手の方から講話をいただいたり、児童生徒の企画によって実施したりしている。

(教育研究会) 市主催の学級づくり研修会を年2回実施している。上越教育大学から講師を招いて、温かく居心地の良い学級づくりについて学んでいる。校務支援システムを使って、「挨拶の向上」について、各学校の取組データや感想を共有している。糸魚川東中学校区のいじめ見逃しゼロスクール集会は、小中の実行委員が主体となって行った。アイスブレイクから少し重い話題まで話し合い、iPadを活用して情報の視覚化や振り返りを行い、いじめはどこにでもあるということ共有できたし、絶対にしてはならないことを確認した。

<質疑>

(教育研究会) 当校ではコロナで自然教室が中止となったが、防災を学ぶということで、時期をずらし、会場を変えて実施した。

(人権擁護委員) 糸魚川高校の体育祭がとても良かった。糸魚川中学校でも体育祭が実施され、できる中で、最大の努力をしていただいていると感じている。青海中学校の人権作文が全部PCで書かれていて、ICTの活用が進んでいる。糸魚川市で人権計画を策定しており、人権教育の中での指針が社会背景を受けて変わってきている。今までは「思いやりや優しさ」と言われてきたが、「権利主体として権利を行使する人を育てる」ということにシフトしてきており、リーガルリテラシー(法を使いこなす力)を育てる、いじめを受けた人等を励ますこと等の責務、ダイバーシティ(多様な人を取り残さない)、相談体制の充実等を大切にすることが出てきた。

(主任児童委員) いじめは「人権侵害なんだ」という見方から様々な活動が行われているという中学校の取組に感心した。親は「いじめは子どもの問題」ととらえる傾向があるが、親に「いじめを人権問題」として伝えることが大切だと感じた。

(人権擁護委員) 「いじめはいけない」だけでなく、「いじめを受けたらどうするか」というこ

とも教えていく必要がある。

(法務局) いじめアンケートの頻度ややり方についての統一はあるか？

(事務局) 市または県で統一はしてはないが、子どもが安心して記入できるようにする等の配慮は必要である。

(校長会) 基本は、子どもが書いた内容が周りから見られないように、中学校では学校で一斉に書かせてはいない。上がってきた内容について、生徒指導部会で必ず確認している。

(教育研究会) 小学校では、学校で毎月書かせており、担任、生徒指導主任、教頭、校長がチェックしており、文字の乱れ等もチェックする。アンケートの内容は○を付けるだけにして、○を付けた子に後で話を聞き、その後、必要な子に聴き取りをしている。全体としては、学期に1回面談している。

(人権擁護委員) 記名か。

(校長会、教育研究会) 当校では記名式で行っている。アンケートに頼らずに日頃からしっかり見とるようにしている。

(主任児童委員) 人間関係の固定化で困っていることはないか。

(校長会) 小学校時代の関係が中学校では崩れ、再構築される。体や心の成長に差が出てくる。

(主任児童委員) いかに学級の中で居心地のよい空間をつくるかが大切。

(教育研究会) 小学校では、保育園での関係を継続する。職員が意識して、一人ひとりの良いところを意識して引き出すようにしたい。

(校長会) 家庭裁判所から個人情報の照会がくるが、高等学校へ連絡するべきか。

(高等学校) それは絶対連絡するほうがよいと思う。入学時の情報共有においても、中・高の連携は大事。高校でもアンケートはたくさん行っていて、面談も年5回行い、担任、副任が生徒の状況把握に努めている。アンケートは無記名で○をつけるだけにして、アンテナを張るように努めている。

(校長会) 家庭の文化が様々である。外国籍の保護者は、保護者同士の交流もできにくい。子育ての文化が違うところもあり、ストレスを溜めていると思う。そのような方への対応ができる組織や機会等を学校へも紹介していただけると助かる。

3 閉会の挨拶 (課長)